

# Program Notes

プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より “ああ、麗しの乙女”

屋根裏部屋のロドルフォの部屋に、ろうそくの火を貸して欲しいと入って来たミミは、迎えたロドルフォと一瞬にして恋に落ち、互いに自分を紹介（「冷たい手」、「わたしの名はミミ」）したのち、仲間の待つクリスマス前の街に出かける前に、「麗しい乙女よ、輝きはじめてた月の光に優しく包まれた優しい面影・・・」と熱烈に歌います。（磯部記）

ドニゼッティ：歌劇「ドン・パスクワレ」より “なんとという優しさ”

ドニゼッティ (1797- 1848) は、19世紀前半のイタリアを代表するオペラ作曲家で、旋律美と劇的構成の巧みさにより、ベルカント・オペラの頂点の一人に数えられます。頑固な老人ドン・パスクワレは甥エルネストの結婚に反対し、自ら若い妻を迎えて遺産を全部譲ろうとします。医師マラテスタはエルネストの恋人ノリーナと共に偽の結婚劇を仕組み、老人を翻弄。やがて策略は明かされ、若い恋人たちは結ばれ、老人も教訓を得て幕を閉じる。“なんとという優しさ” は、恋人ノリーナを失ったと信じたエルネストが、失意の中で遠い地へ去ろうと決意する、柔らかな旋律と流麗な歌唱から成る、叙情的なアリアです。

ロッシーニ：歌劇「セヴィリアの理髪師」より “空はほほえみ”

ボーマルシェの戯曲を原作とする「セヴィリアの理髪師」は、有名な「フィガロの結婚」の前日譚で、イタリアのオペラ作曲家ロッシーニの代表作。アルマヴィーヴァ伯爵と医師バルトロの姪、ロジーナとの結婚を助ける理髪師フィガロの活躍を描きます。舞台はセビア。夜明け前、バルトロ邸の前の広場にアルマヴィーヴァ伯爵が登場する。バルトロ邸のバルコニーに向かい、伯爵が愛の歌を歌います。軽やかなリズムと繰り返されるフレーズが、なめらかな流れと明るい響きを形づくります。

ヘンデル：歌劇「リナルド」より “涙の流れるままに”

11世紀のエルサレム、イスラーム側の魔法使いの囚われの身になったアルミレーナが、敵軍の王アルガンテに求愛されるが、愛するリナルドへの貞節を守るため「苛酷な運命に涙を流しましょう」と歌う、単独で歌われることも多いアリアです。

月の光 (ピアノ・ソロ)

ドビュッシーが1890年から1905年にかけて作曲したピアノ独奏曲「ベルガマスク組曲」の第3曲で、ほとんどピアノニッシモで演奏される夜想曲。優しく切ない曲想で有名です。

メンケン：「美女と野獣」より 主題歌

『美女と野獣』は、フランスの異類婚姻譚で、ヴィルヌーヴ夫人によって最初に書かれた版と、それを短縮して1756年に出版された、ポーモン夫人版があります。父が野獣の城で罰を受ける代わりに娘が身代わりとなり城へ赴きます。恐ろしい姿の野獣は当初は悪と思われるのですが、実は優しさと思いやりを持ち、娘は次第にその内面を愛するようになります。やがて野獣は呪いが解け、王子の姿に戻りハッピーエンド。2017年ディズニーの劇場アニメが出て、それが定番となっています。

ドボルザーク：「ルサルカ」より “月に寄せる歌”

古代スラヴ人は森や水には「ルサルカ」と呼ばれる若い娘の精霊が住むと信じていました。夜、月がことのほか明るい晩に、ルサルカは木の枝を鳴らし、互いにオーオーと声を掛け合って、楽しく舞います。ドボルザークはこの神話を元に、水の精ルサルカと人間の王子との成就しない恋をオペラにしました。ルサルカは恋に苦しみながら夜空の月に語りかけます。「月よ、しばらくそこにいて!教えて!いとしい人はどこ?」と歌います。異界の存在であるがゆえの切なさ、届かぬ愛への希求が静かに歌われます。

サルトリ&クアラントット： “タイム・トゥ・セイ・グッバイ”

「君と旅立とう」は、イタリアの歌手アンドレア・ボチェッリが1995年に発表した楽曲です。オペラティック・ポップを代表する曲の一つでクラシカル・クロスオーバーの先鞭を付けた曲です。1996年にイギリスのソプラノ歌手サラ・ブライトマンが、ボチェッリにデュエットを申し出て、曲名及び歌詞の一部をイタリア語から英語の「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」に変更して共演したことで有名になりました。

プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より “愛の二重唱”

愛の二重唱といえばワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」(1857～1859) があまりにも有名です。歌劇「蝶々夫人」(1904) は、長崎を舞台にした、蝶々夫人と不実なアメリカ人ピンカートの、裏切りと絶望、破局を描いたオペラですが、出会い間近の“愛の二重唱”は、ワーグナーの影響を受けつつ、プッチーニ流、イタリア風に完成させた、双璧といえる作品です。「佐渡裕氏が指揮をしていると、客席からすすり泣きが聞こえる」とか、メトロポリタンオペラのお客さんが「今日はハンカチを持って思い切り泣くの」とか、蝶々さんは自裁してかわいそうなのですが、勝者は蝶々さんであることをプッチーニは同情と愛情を持って書きました。今も世界中で上演される理由です。（磯部記）

# Profiles

森 麻季【ソプラノ】MORI Maki

東京藝術大学、同大学院独唱専攻、文化庁オペラ研修所修了。ミラノとミュンヘンに留学し、ブラシド・ドミンゴ世界オペラコンクール「オペラリア」等多数の国内外のコンクールに上位入賞を果たす。1998年ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》に日本人としてはじめて出演以来、ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》でアメリカ・デビュー以来、ワシントン・ナショナル・オペラとロサンジェルス・オペラにおいて、《リゴレット》《パルシファル》《ホフマン物語》《こうもり》《ウェルテル》でドミンゴ、フォン・シュターデ、アラニーヤ、ケント・ナガン、ジューン・アンダーソン、ブレンデル、オブラストワフ等と共演。ルイーザ指揮ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、エディンバラ音楽祭《リナルド》、ノセダ指揮トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》で、フリットリやアルヴァレスと共演し、国際的な評価を得る。2015年佐渡裕プロデュースオペラ《椿姫》のヴィオレッタは、連日スタンディング・オベーションで讃えられ、2017年モンテヴェルディ生誕450年を記念した鈴木優人プロデュースオペラ《ポッペアの戴冠》のタイトルロールに続き、同プロダクションによる《リナルド》《ジュリオ・チェーザレ》《魔笛》《ドン・ジョヴァンニ》に出演し、いずれも好評を得る。2023年BBCプロムスにデビュー。2024年山田和樹指揮&バーミンガム市響《蝶々夫人》のタイトルロールは英国の聴衆から喝采をあびる。コンサートではアシュケナージ、デミルカーノフ、インバル、小澤征爾、チョン・ミョンファン、パーヴォ・ヤルヴィ、ハーディング等の著名指揮者やNHK交響楽団、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルのメンバー、フランクフルト放響、サンクトペテルブルグ・フィル、ドレスデン国立歌劇場室内管等の内外の主要オーケストラ、ドレスデン聖十字架教会合唱団などと共演し成功を収める。自ら企画する「愛と平和への祈りをこめて」コンサートは、今年16回目を迎える。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇り、コロラトゥーラの類稀なる技術、透明感のある美声と深い音楽性に定評を持ち、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」メインテーマやNHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌い、2016年文部科学省主催WFSC公式イベントに出演するなど、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。国立音楽大学客員教授、東京音楽大学特任教授、東京藝術大学でも教鞭を執る。CDデビュー20周年記念アルバム「至福の時～歌の翼に」をリリース（エイベックス・クラシックス）。安宅賞、ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。



錦織 健【テノール】NISHIKIORI Ken

国立音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第5期修了。文化庁在外研修員としてミラノに、また、五島記念文化財団の留学生としてウィーンに留学。 第17回ジロー・オペラ賞新人賞、第4回グローバル東敦子賞、第1回五島記念文化賞新人賞、第6回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。 1986年「メリー・ウィドウ」カミーユ役でデビュー、以後、「こうもり」アルフレード、「魔笛」タミーノ、「セヴィリアの理髪師」アルマヴィーヴァ伯爵、「アルバート・ヘリング」アルバート、「ポッペアの戴冠」ネロ、「スペインの時」ゴンサルヴェ、「リゴレット」マントヴァ侯爵、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ、「椿姫」アルフレード、「蝶々夫人」ピンカートン、「学生王子」カール・フランツ役等その他、三木稔作曲「静と義経」や、三枝成彰作曲「忠臣蔵」といった邦人作品にも意欲的に出演し、いずれも好評を博している。 また、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」「交響曲第9番」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルトやヴェルディの「レクイエム」等のソリストとして高く評価を受け、親しみやすいトークを交えたリサイタルでも、多くのファンを魅了している。この他2000年、03年のNHK紅白歌合戦への出演や、2012年より6年間NHK-FM「DJクラシック」のパーソナリティーを務めるなど、テレビやラジオ番組への出演も多い。 2002年からはオペラ・プロデュースも始め、2015年には第6弾モーツァルト作曲「後宮からの逃走」も手がけた。 2024年国立音楽大学同調会より第7回くにたち賞大賞を受賞。 CDは、ポニー・キャニオンより「恋人を慰めて」「すみれ」「砂山」「秋の月」「錦織健 日本をうたう～故郷～」錦織健 アリアを歌う」「錦織健ブラチナム・ベスト」等が発売されている。



## 森 麻季・錦織 健

## デュオ・リサイタル

### アメイジング・ソングス

### ～愛と煌めきを歌にのせて～

2026. **4.12(日)**

14:00開演 (13:00開場)

## 小田原三の丸ホール大ホール

ごあいさつ

森麻季・錦織健デュオリサイタルにお越しいただきありがとうございます。

音楽の起源は、楽器ではなく、歌から始まったと思いますが、歌は人間の感情の内の「喜怒哀楽」に加えて「愛」を表現するのに最も適している様式です。そして声は、全員が持っている楽器なので、歌を歌うことは、だれでも出来るのですが、上手に歌うのは簡単ではありません。本日は、才能に恵まれ、習練を積んだお二人に、長い歴史で積み重ねられた、めくるめく曲の数々を披露していただくリサイタルです。

葉桜の季節となった午後のひとときをごゆっくりお過ごしください。

Rzp LLC 代表 磯部

# Program

森 麻季 (ソプラノ) ♥ 錦織 健 (テノール) ★

山岸 茂人 (ピアノ)

# Program Notes

ヴェルディ：歌劇「椿姫」より “乾杯の歌”  
19世紀中頃のパリの裏社交界を舞台に、女主人公ヴィオレッタと、純情な青年アルフレードの悲恋を描く、原題はラ・トラヴィアータ(道を踏み外した女)。夜会の冒頭で、アルフレードが座を盛り上げる歌を所望され、ヴィオレッタとともに歌う「乾杯の歌」は大変有名で、歌劇「椿姫」は、明るさ・華やかさ・力強さを失わないヴェルディの特質がもっとも良く発揮されている、世界中で最も愛されるオペラのひとつです。2001年に来日したフェニーチェ歌劇場公演でヴィオレッタを歌ったディミトラ・テオドシユウは「ヴィオレッタは気高い人」と評しましたが、作曲家ヴェルディは、社会に翻弄されながらも尊厳をもって生きるヴィオレッタを、共感をもって描いているのです。(磯部記)

服部良一：蘇州夜曲  
1940年に発表された、西條八十作詞・服部良一作曲の日本の歌謡曲で、映画『支那の夜』の劇中歌として有名になりましたが、中国の美しい風景と異国情緒を歌い上げた、日中戦期の作品でありながら現在でも愛される名曲です。

小林秀雄：落葉松  
小林秀雄は1972年、野上彰の小説「軽井沢物語」の巻末に掲げられている『落葉松』という詩から、自身の記憶にある上州の落葉松林の風情を思い出し、独唱とピアノのための初稿を一気に書き上げました。

越谷達之助：初恋  
石川啄木歌集「一握の砂」より「砂山の砂に腹這初恋のいたみを遠くおもひ出づる日」に越谷達之助が曲を付け、歌曲「初恋」として歌われています。

山田耕筰：からたちの花  
1918年、北原白秋が小田原に転居して来て、関東大震災(1923)後、東京に転居するまでの間、多くの童謡と歌曲を創作しました。白秋は、山田耕筰と1922年に雑誌『詩と音楽』を創刊し多くの歌曲を共作しています。耕筰は自伝において、工場でつらい目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いたと述懐していますが、この歌は耕筰のこの思い出を白秋が詩にしたもので、日本歌曲の最高峰と言われていています。当時、東海道線は国府津までしか通じておらず、耕筰は小田原城山の白秋の居宅、「木菟(みみづく)の家」までの数km以上の道を、徒歩で通ったそうです。

スッペ：恋はやさし野辺の花よ  
オーストリアの作曲家スッペ(1819-1895)が1879年に作曲したオペレッタ「ボッカチオ」の劇中歌。日本では、大正時代に浅草オペラの台頭によってスッペのオペレッタが紹介され、『ボッカチオ』のアリエッタ『恋はやさし野辺の花よ』が田谷力三の愛唱歌としてはやりました。

菅野よう子：花は咲く  
東日本大震災の復興を応援するためにNHKが2011年度から行っている「NHK東日本大震災プロジェクト」のテーマソング。作詞は宮城県仙台市出身の岩井俊二が、作曲・編曲は岩井と同学年かつ同県同市出身の菅野よう子が手掛けている。歌詞の、誰の声とも定まらない語りは、個人の感情というより、社会全体の記憶として響いています。

モンテヴェルディ：歌劇「ポッペアの戴冠」より “あなただけを見つめて”  
モンテヴェルディ(1567~1643)はオペラの最初期を担ったイタリアの作曲家で、初期の「オルフェオ」が有名ですが、最後の作品「ポッペアの戴冠」は、彼の手法が大成された人間らしいドラマが繰り広げられている傑作です。古代ローマ帝国の皇帝ネロが、周囲の反対者を排除して、寵愛するポッペアを皇后とする物語。終幕で歌われる“あなただけを見つめて”は、言葉と旋律が溶け合う美しい二重唱です。

プッチーニ：歌劇「トスカ」より “妙なる調和”  
画家カヴァラドッシと、その恋人、歌姫トスカの物語で、1900年に初演された古今のオペラの代名詞的な存在です。政治囚の逃亡を助けたために死刑宣告された画家を救おうと、トスカは警視總監スカルピアを殺すが、あらかじめ仕組まれたスカルピアの計略でカヴァラドッシは処刑され、トスカも彼の後を追って城から飛び降り、自殺します。劇的なオーケストラが鳴り響く、音楽の表現を拡大した作品。一幕でカヴァラドッシが、様々な美しさの調和をたたえるも、「一筋の思いはトスカ、君だけに」と“妙なる調和”を歌います。

プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より “私が街を歩くと”  
無人島に1曲だけ持って行けるとしたら、「ラ・ボエーム」を選ぶ人は多いと思います。1896年の初演から100年以上経った今でも世界中の人々から愛され続ける『ラ・ボエーム』。お針子ミミと詩人ロドルフォの悲恋を、「ボヘミアン」と呼ばれた、自由を謳歌して生きる若い芸術家たちの、はかなくも美しい青春の物語で、現在の新宿に置き換えてもそのまま通用する大人気作品です。主人公のミミが可憐な女の子であるのに対し、画家マルチェッロの恋人ムゼッタはおきゃんな女。カルチェラタンの酒場で、「私が街を歩くと皆が振り返る」と歌います。(磯部記)

ヴェルディ：歌劇「椿姫」より “乾杯の歌” ♥★

服部良一：蘇州夜曲 ★

小林秀雄：落葉松 ★

越谷達之助：初恋 ♥

山田耕筰：からたちの花 ♥

スッペ：恋はやさし野辺の花よ ★

菅野よう子：花は咲く ♥

モンテヴェルディ：歌劇「ポッペアの戴冠」より  
”あなただけを見つめて” ♥★

プッチーニ：歌劇「トスカ」より “妙なる調和” ★

プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より  
“私が街を歩くと” ♥

プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」より  
”ああ、麗しの乙女” ♥★

⇨ 休憩 ⇩

ドニゼッティ：歌劇「ドン・パスクワレ」より  
“なんとという優しさ” ★

ロッシーニ：歌劇「セヴィリアの理髪師」より  
“空はほほえみ” ★

ヘンデル：歌劇「リナルド」より “涙の流れるままに” ♥

ドビュッシー：月の光(ピアノソロ)

メンケン：「美女と野獣」より 主題歌 ♥★

ドヴォルザーク：歌劇「ルサルカ」より  
”月に寄せる歌” ♥

サルトリ&クアラントット：  
”タイム・トゥ・セイ・グッバイ” ★

プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より “愛の二重唱” ♥★